

ひきよせ

02 hikiyose
2022-2023



日置の魅力を
私たち、中学生がお届けします
あなたも見えない糸で
引き寄せられるかも!?

地域資源 × 人 × 中学生でつくる新しい日置
日置はまだまだおもしろい!!



クラウドファンディング・撮影チーム



取材チーム



制作・編集チーム



PR動画チーム



広報チーム

今年度はチームに分かれて「ひきよせプロジェクト」を進めてきました。チームごとにイメージカラーを決め、オリジナルTシャツを作成。より一体感が増し、チームで仲良く、楽しく協力することができました!



北農園班



平阪さん班



鳥毛洞窟班



グランピング班



御船祭班



海来館班



虫送り班



八幡山城跡班

各チームからそれぞれの取材先に出され、取材班を結成。それぞれの取材先をイメージしたポーズで記念撮影!



「ひきよせ」手に取っていただきありがとうございました。日置中学校では日置の魅力を伝えるフリーマガジン作りに取り組んでいます。フリーマガジンを設置していただけるお店や施設等がありましたらぜひ学校までご連絡をお待ちしています。今後も取組を継続できるよう頑張っていきますので応援よろしくお祈りします!

ひきよせ
02 hikiyose
2022-2023

発行 白浜町立日置中学校
住所 〒649-2511
和歌山県西牟婁郡白浜町日置979-2
電話 0739-52-2070
@hikityu2019



「活気あふれる日置の町づくり」をテーマに活動を始め四年目に突入しました。私たちはこの総合的な学習の取組を「ひきよせプロジェクト」と名付け、さらにアップデートさせていきます。プロジェクトの理念は「日置の魅力をたくさんの人に伝えよう」。理念に基づきそれぞれが自分たちにできることを考えています。

昨年度フリーマガジン「ひきよせ」の創刊号を発行し、今年度は年度当初より第二号の制作にとりかかりました。創刊号で発信した日置の魅力。前回発行の際にいただいたアドバイスを元に、今回はまた新たな面から町の良さを発信できるように取り組みました。

たくさんの方が、豊かな自然、町の温かさ、日置で頑張る人々の想い、たくさんの方々の魅力に「ひきよせ」られてくれるのかなと思います。



のどかな自然の多い日置の大古(おほふる)地区に静かにたたずむ春日神社。虫の声がかすかに聞こえ、風が爽やかに吹いている夏の夜、毎年7月に行われている伝統行事「虫送り」。みなさんは聞いたことがありますか？



大古の中学生でもあまり知らない「虫送り」は平安末期に始まったのではないかとされており、古くから受け継がれている大古の大切な伝統行事の一つです。この伝統行事が行われるようになった背景には、ある歴史的人物が関係していました。その人物というのは「斎藤実盛」といいます。『実盛の乗った馬が稲の切り株につまずいたときに討ち取られたため、実盛は稲を食い荒らす害虫に化けた』という言い伝えが古くからあります。稲虫は「実盛虫」とも呼ばれており、この霊をすずめる神事が「実盛送り」と言う「虫送り」の行事として全国各地に伝わっていると知りました。

虫送りは毎年7月の最終の土曜日に行われていると聞き、私たちは7月23日土曜日に、実際に「虫送り」を見に行くことにしました。地域の人や小中学生など20〜30人が参加していて、すごく和やかな雰囲気でした。「虫送り」が始まると、竹の竿に缶を吊しその中に綿を

@大古

平安から続く伝統行事。

世代を超えて残したい。



大古の中学生でもあまり知らない「虫送り」は平安末期に始まったのではないかとされており、古くから受け継がれている大古の大切な伝統行事の一つです。この伝統行事が行われるようになった背景には、ある歴史的人物が関係していました。その人物というのは「斎藤実盛」といいます。『実盛の乗った馬が稲の切り株につまずいたときに討ち取られたため、実盛は稲を食い荒らす害虫に化けた』という言い伝えが古くからあります。稲虫は「実盛虫」とも呼ばれており、この霊をすずめる神事が「実盛送り」と言う「虫送り」の行事として全国各地に伝わっていると知りました。

入れて火をつけたたいまつを持って田んぼにかけ、水田の周辺を掛け声をかけながら二列になって練り歩きます。大古の地元の人達の間では、「虫送り」を「おっとり」と呼んでいて、地域によって呼び方が変わるそうです。そして、かけ声はこの実盛様の言い伝えを元にして「実盛様のお通りだ 虫もまなごもお供せい」と言うそうです。

今回の取材に応じてくださった大古区長の冷水さんは、「こんなに参加者が多いのは40年ぶり」そして「この虫送りを次の世代に伝えていってほしい」と笑顔まじりに私たちに話してくれました。生まれてからずっと大古に住んでいる冷水さんだからこそ「虫送り」に対する思いが強く、「虫送りを次の世代へ伝えて、残していってほしい」という気持ちが大いなのだと感じることができました。

しかし、近年では「虫送り」を行う地域が全国的に少なくなってきました。それに伴い「虫送り」に参加してくれる地域の人たちの参加が毎年少なくなっているのが現状です。この伝統行事を守るためには、地域の人の力を借り、校外の方にも参加していただき、伝統行事の大切さを知って頂くことが必要だ



冷水喜久夫(しみずきくお)さん
生まれてから71年間大古に住み、役場に40年間勤めていた。退職後も1ヶ月に3,4回会議に出席している。
趣味:ギター、カメラ。目標:楽しんで生きる、生きがいをつくること。

と、この取材を通して感じました。伝統行事を引き継いでいく工夫を考え実行していくこと、これが今の私たちに与えられた課題だと強く感じました。

また、冷水さんが思う日置の課題について尋ねてみました。やはり、人が減ったことだそうです。昔は人も多く、「虫送り」に参加する地域の人もたくさんいたとおっしゃっていました。冷水さんは将来、工場や会社などの働く場所が増え、若い人が住むことのできる活気あふれる日置になってほしいと願っているそうです。私たちもこの取組が、活気あふれる町づくりに貢献できれば嬉しいなと思います。

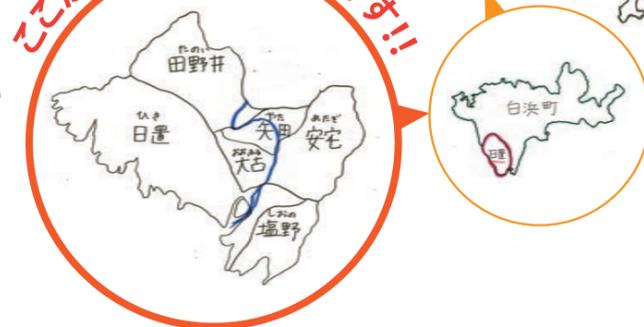
夕日に照らされ輝く稲。虫の音や子供のはしゃぐ声、水の張った田に映る揺れる炎(ほむら)。この幻想的な光景を世代を超えて未来に残していきたい。

CONTENTS

- 03 平安から続く伝統行事 世代を超えて残したい虫送り @大古
- 04 みんなの笑顔が集う海沿いの店 海来館 @日置
- 06 様々な人の協力のもと誕生した新しいグランピング施設 In the Outdoor 白浜志原海岸 @日置
- 08 御船に270年の歴史をのせて 御船祭 @日置
- 10 自然が生んだ奇跡の洞窟 鳥毛洞窟 @日置
- 12 歴史を知り日置を見つめる 八幡山城跡 @安宅
- 14 みんなから愛されるトマトを作りたい 北農園 @安宅
- 16 子どもたちの成長を見守る日置の母 平阪恵さん @安宅
- 17 写真コンテスト！前編 日置の春、夏を感じてください
- 18 おすすめスポット！ 私たちのおすすめの日置を紹介します
- 20 総合授業の様子
- 22 フリーマガジン第2号ができました！ 3年生の感想、読者の方からの感想
- 24 記念撮影・編集後記



ここが私たちの町、日置です!!



(日置中学校区のみです)



みんなの笑顔が集う 海沿いの店「海来館」。



雄大な太平洋・志原海岸・ペアーズロックが眺められる道の駅「海来館」。日置川インターを右折して約5分、国道の松林を抜けた先に、少し不思議なお城のような外観をした建物が見えてきます。それが「海来館」。

一階には、従業員さんが心を込めて作る手作りパンやケーキ、地域の方々が作る野菜、日置の特産物などが置いてあります。二階には、「海来館食堂」があり、海鮮料理も食べられます。「海来館食堂」の横のテラスでは、バーベキューもでき、休日は、観光客で賑わいます。海来館は、日置川町商工会のアンテナショップとして作られたお店なのです。



藤井有沙(ふじいありさ)さん(40歳)、竹中裕子(たけなかゆうこ)さん(46歳)、日置川町商工会の朝本政幸(あさもとまさゆき)さん(68歳)に取材させていただきました。藤井さんと朝本さんは、海来館がオープンした年からずっと働かれています。三人の皆さんは、「お客さんが満足できるお店にしたい」との思いで毎日勤務されています。

数年前より新型コロナウイルスが流行し、マスク生活になってしまったこととお客さんには表情が見えづらくなってしまう。そのような中、表情を出したり言葉遣いを意識したりすることでお客様を安心させられるよう心がけているそうです。

室内の衛生管理も前よりも厳重になり、隅々までの消毒を徹底。おかげで従業員さんたちは風邪を引くこともなくなったようです。

コロナの影響で制限されること、変化したことはたくさんあっても、変わらず楽しく営業できている、とお話してくださる様子を見て、それは従業員の皆様の努力の結果だと感じました。

三人の皆さんに、日置の魅力について聞いてみました。「海がきれい。」「ペアーズロックがいい。」「海・山・川の三つの環境が全て整っている。」と自然に関する

ある洋菓子コーナーで売られています。海来館の中にあるケーキは、全てお店の中で作られています。平日は、地元の方のご利用が多く、土日、祝日は、観光客の方も多く買いに来られるそうです。そのため、土日、祝日は平日よりも沢山のケーキを作るそうです。

一番人気は「チーズケーキ」。しっとりして、チーズのしつこさがなく、いつ食べても変わらない美味しさです。チーズケーキの他にも、たくさん種類のケーキが毎日ショーウィンドウに並んでいます。

その中で私は、チョコバナナケーキやサンマルクというケーキをいただきました。チョコバナナケーキは、甘さ控えめであっさりとしたココアスポンジ、少し酸味のあるバナナがチョコレートに合います。食べた瞬間沢山のチョコレートが口の中にふわっと広がり、最高に美味しいです。サンマルクは卵のムースとチョコレートミース、ココアスポンジ、スポンジに染み込ませたシロップがたまりません。そして表面をパリパリに焼き上げた香ばしい香りのキャラメリゼは、ほろ苦く感動の美味しさです。

海来館で作られているケーキのスポンジは、柔らかすぎず、どこか家庭的な味です。焼ききたてのスポンジは、フワフワしていてカットしにくいので、一度冷やしてから、カットしているそうです。

竹中さんに、ケーキを作るうえでこの

答えがたくさん返ってきました。私たちも日置の良いところは自然豊かなところだと思っています。とにかく海がきれい。そして夏には川が私たちの遊び場です。

老若男女問わず、地元の人たちに愛されている日置の自然をもっと好きになりたいと思いました。

また、中学生に期待していることを聞いてみました。「何事にも一生懸命頑張してほしい。」「ひきよせの活動を思いっきり楽しんでほしい。」「大人になったら生まれ育ったこの町に住んでほしい。」と、それぞれの思いを聞かせてくださいました。それを聞いて私たちが「ひきよせ」の活動を精一杯楽しみながら、活動を通じて、少しでも期待に応えられるように頑張っていきたいと思いました。

皆さんも是非、地元の人に愛されている道の駅「海来館」に訪れてみてはどうでしょうか。



左:藤井有沙さん 右:竹中裕子さん



だわりについて尋ねると「美味しいと思ってもらうために、毎日頑張っています。」と笑顔で答えてくれました。



海来館おすすめのパンは「海来館生食パン」です。生食パンには生クリーム・牛乳・蜂蜜がたっぷり使われており、濃厚でふわわりしっとり仕上げられています。何もつけずにそのままでもいい食パンが一番人気だそうです。生食パンの誕生には、パン担当藤井さんの研究の努力が隠されていることも知りました。日置川町商工会の朝本さんも愛食しており、朝ごはんにはいつも食べているそうです。ちなみに、朝本さんの好きなパンは「海来館パン」。ふわわりしていて、ほんのりと甘く、どこか懐かしい味がするパンです。

他にも日置川の特産物を使った焼き菓子「川添茶フィナンシェ」も人気です。川添茶は、白浜町市鹿野(旧日置川町)の川添茶を使ったフィナンシェは、しっとりとした食感でお茶の豊かな風味が出るように作られています。フィナンシェの味は通常八種類あり、川添茶の茶葉を使ったものが四種類。煎茶は、深い甘みと上品な香りがあります。濃茶は、甘みと苦みのバランスが良く、あまり味が重たくありません。ほうじ

茶は香ばしく、紅茶は渋みが少なくあっさりしています。あとの四種類は、茶が入っていないプレーンと、イタドリの葉を使っているものが三種類です。フィナンシェは、海来館の中に



[海来館]
白浜町日置2039-73
TEL 0739-52-4100
HP <https://www.hikigawa-miraikan.com/>
営業時間 9:00~18:30

様々な人の協力のもと誕生した 新しいグランピング施設。

澄み切った青が無限に続くこの太平洋。視界を遮るものもなく遠くまで見渡せるこの志原海岸近くで、グランピング施設「In the Outdoor 白浜志原海岸」が今年5月にオープンしました。そこで今回、この施設を営んでいるOUTDOOR TRIP株式会社代表取締役の南畑義明(みなみはたよしあき)さんにインタビューを行いました。



オープンして間もない「In the Outdoor 白浜志原海岸」ですが、一日の利用者は全て埋まると50人ほどになるそうです。アウトドア好きの人たちから家族連れ、カップルなどなど、お客様層は様々で、その中でも30代後半ぐらいの年齢層の方が特に多いとのこと。この話から、いろいろな人が楽しめる施設になっていることが分かりました。



地元でとれた食材を使ったこだわりの料理。



グランピングとはホテルの快適なところとキャンプの自然を満喫できるところのいいとこどりをした宿泊施設で、もともとアウトドアが好きだった南畑さんは、「ここなら自分のしたいことができる」と考え、事業を展開されたとのこと。この施設内の敷地はとて広く、開放感がありました。晴れた日はもちろん、もし雨が降ったときや消灯時間を過ぎてもまだ話し足りないときには、ロングハウスと呼ばれる場所で快適に、且つ時間を気にすることなく過ごすことができます。また、ロングハウスは夜になるとお洒落なバーとなります。内装は黒色がベースとなっていて、デザインは志原海岸の地層をイメージしているとおっしゃっていました。

宿泊施設は様々で、まず家族やペットと過ごすのに最適なプライベートキャビン。スロープなどユニバーサルデザインが施されています。またグランピングエリアも、大人数で過ごすエリアと家族やパートナーと過ごすエリアに分かれています。そして有名な建築家、隈研吾(くまけんご)さんとスノーピークがコラボして作成した木箱型トレーラーハウスもあります。

この施設では内装のおしゃれな部屋「い」という気持ちで帰ってもらえるよう努めているこのグランピング施設。南畑さん自身、2019年ごろから本格的にグランピングに興味をもったそうで、「アウトドアを楽しむ手段はキャンプだけではない。グランピングを通してよりアウトドア好きな人を増やしたい。」とグランピングに対する熱い気持ちを語っていただきました。

新型コロナウイルス感染症により世間は大きく変わりました。このコロナ禍で変化したことは何か尋ねると、「仕事の仕方が大きく変わった。直接会って会議することが難しくなったが、その分リモート会議が主流になり、二日で東京と和歌山と大阪の人とリモートで会議をしたりする日などもよくある。」とおっしゃっていました。

南畑さんは、「自分の仕事を通して社長となる人を増やしたい。また、若い人がイキイキと仕事ができる、仕事が楽しいと思えるような環境や、地元で働きたいと思える人を増やしたい。そして地元に残りたいと思っている人には残れるような環境を提供したい。そのため、自分ができることは何かを考えて行動している。」と話してくれました。

最後に南畑さんは私たちに、「二つの大きな事を成功させようと思ったら、様々な方の協力が必要だ」ということを話してくださいました。南畑さん自身、このグランピング施設を作るときに受付



ペットも一緒にグランピングを楽しめるプライベートキャビン!

に泊まりながら焚火やBBQ、晴れた日には満天の星空や雄大な太平洋が望める志原海岸、さらには南紀熊野ジオパークの一部である鳥毛洞窟を満喫することができます。そして、一番こだわっていることは食事とのこと。地元でとれた新鮮な食材をふんだんに扱った料理は味はもちろん、インスタ映えること間違いなし!

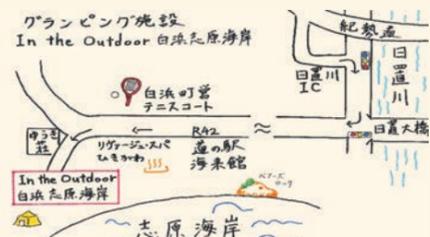
南畑さんがこのグランピング施設で大事にしていることは①アウトドアを楽しむこと②快適であること③志原海岸の自然を感じてもらおうこと、この三つをバランスよくお客様に提供できるように努力しているそうです。そして、実際私たちもお話を聞き、施設内を見学している中で、ここに来ないと体験することのできないことばかりだと感じました。

接客をしてくれる人、デザイナーさん、マーケティング、カスタマーサービス、相談を受けてくれる人などその他にも本当に多くの人の協力のもと、苦勞を乗り越えてきたと教えてくれました。私たちも南畑さんのように、様々な人から協力したいと思ってもらえるような人にな成長したいと感じました。

アウトドアが好きな方、これからアウトドアの門をたたこうと思っている方も十分に楽しめる場所なので、みなさんぜひ「In the Outdoor 白浜志原海岸」へお越しください!



こだわりの展望台からは志原海岸を一望することができます!



[In the Outdoor 白浜志原海岸]
白浜町日置1875
TEL 0739- 34- 3311
HP <https://intheoutdoor.co.jp>
電話対応時間 9:00~19:00



スノーピークとコラボした箱型トレーラーハウス。



落ち着いた時間を過ごすことができる空間。



テントの中もインテリアに凝っていてとてもお洒落。



看板のデザインも凝っています!

御船に270年の歴史をのせて。



©撮影:荒木隆夫 2013年

ど、伝統は守ってほしい」この言葉に祭りに対する熱い想いを感じる事ができました。
御船祭で楽しい、大変と思う瞬間は何なのかを尋ねてみると、楽しいことは八月からの準備の何もかも、逆に変なこと、その準備全てです。御船祭は、生活の一部であり、人生の一部でもあり、とても立派な祭りだと感じていると語ってくれました。
日置は山や川、海などの自然がたくさんあり、小さな町だけど今日に至るまでの歴史が詰まっており、子どもたちが心身ともに健やかに成長することができる魅力的な町だと話してくれました。
最後に、今後もこの活動や伝統などの様々な取組を途絶えさせることなく引き継いで、大きな取組にしていきたいと熱い想いを聞きました。この町の歴史を、日置の人々がつないでくれた文化を、後世に引き継いでいくことができます。

今から270年前、江戸時代後期、寛政年間(1789年~1801年)から御船祭(みふねまつり)は始まりました。現在も10月の第二日曜日、月曜日に行われています。今年もコロナウイルスの影響により規模を縮小しての開催となりました。

昔の日置は材木の町でたくさん機帆船が入港していました。この祭りは、船乗りの祭りで、商売繁盛を願うために行われていました。祭り当日は「獅子舞」をはじめ「子供神輿」や「御船」などが行列となって八幡浜まで練り歩きます。

浜に着くと、神輿をのせた御船を担いで海へ入り潮をかけ清める「潮かけ神事」が行われ、海から上げると掛け声とともに御船が高く担ぎ上げられます。その後、御旅所(おたびしよ)へおさめられます。

この祭りの名前ともなっている「御船」ですが、なぜ御船と呼ばれるのかというと、神様をのせている船だからだそうです。他にも、神船とも呼ばれます。

この祭りの一番の魅力は御船が海に入るところです。海に入る理由は、神様を清めたり、神様を喜ばすためだそうです。この御船は男性だけで担いでいて女性性は担いでいません。不思議に思っているのと、その理由が、二つありました。一つ目は男性が尊いという昔の考え、二つ目は、力仕事だから女性では危ないという理由です。



るよう、私たちがこの活動を日置中学校の新しい伝統として継続させることが今の私たちにできる第歩だと思えました。この活動を日置の町の活性化や、伝統文化の保存・継承に繋げたいです。
今まで何となく参加していたお祭り。今回実際に祭りを守っている方々の真剣な話を聞くことで、新たな楽しみ方を発見したように思います。祭りを守る町の人々の想い。それを感じながら今後は祭りに参加したいと思います。
みなさんもぜひ一度来て、日置の歴史を感じてみてください。



©撮影:荒木隆夫 2018年

ということが理由だと知りました。

御船の重さは、1トンもあります。それを、担ぐためのお二棒が片方に8本ずつ、両方で16本、つまり16人で一人あたり60キログラムも負荷がかかります。

御船はお酒を飲んで運ぶのですが、それは神様と一緒に酒でお祝いするためです。そのほかにもお酒を飲む理由はあり、お酒で体を清めるためや、力ややる気を起こさせるためだそうです。

ケガをする人はいないのか気になったので尋ねると、足が挟まったり、御輿から振り落とされてケガをすることもありますが、ケガをしないためには、御輿を担いでいる人達全員の団結力や祭りに対する想いが必要だと教えてくれました。

祭り当日は、二日目は夕方から始まり、夜の日置の町を歩き、お寺に行ったり公民館に行ったりします。二日目は朝から始まり海まで行き、獅子舞や御船の潮かけが行われ、大迫力で見応えがあります。

今回、現在の御船会の会長・秋月さんに取材にご協力いただきました。なぜ御船祭に関わろうと思ったのかを尋ねると、御船の保存会を残したい思いがあったからだと答えてくれました。また、以前担ぎ手になり、それが思い出に残っていて、自身が祭りに関わることで、五年後、十年後もずっと続いてほしいと思ったそうです。「文明は進化するけど、



御船会会長 秋月和文(あきづきかずみ)さん(51)



[日の出神社]
白浜町日置436
TEL 0739-47-0232
御船祭り開催日時
10月第2日曜日、月曜日



@日置 自然が生んだ 奇跡の洞窟。

紀勢道の日置川ICを出て、国道42号線を白浜方面に進んでいくと、左手にきれいな太平洋が二面に広がります。そこは南紀熊野ジオパークに認定されている志原海岸（しはらかいがん）です。ジオパークとは、地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて、活動する場所で、地球科学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された、一つにまとまったエリアです。日本国内には日本ジオパーク委員会に認定された日本ジオパークが46地域あり、南紀熊野ジオパークはその一つで2014年8月に認定されました。南紀熊野ジオパークの中の将来的に残していきたいエリア（ジオサイト）として、志原海岸全体がジオサイトに認定されました。認定されることにより知名度が上がり、観光に訪れる方も増えていきます。

志原海岸には、自然が生んだ奇跡の洞窟があります。今回は志原海岸の中でもその洞窟に注目してみました。その洞窟は鳥毛湾の近くにあることから「鳥毛洞窟（とりけどうくつ）」という名前が付けました。この洞窟は、隆起する

んは、これからも健康に過ごし、温泉などに旅行に行きたいそうです。山本さんのお話の中で、もし願いが叶うなら海を泳ぐために「エラ」が欲しいとおっしゃっていたので、すぐく自然が好きだということが伝わってきました。

今回、山本さんは、洞窟や地層についてとても楽しくお話してくださいましたのが印象的でした。普段、自然の中で当たり前に生活している私たちは自然のありがたさを改めて考える機会があまりないことに気づきました。山本さんのように自然を愛する人との交流は、私たちに新たな視点を教えてくれます。日置の自然の素晴らしさにしっかりと触れ、自然豊かな日置にたくさんの方が来て魅力を感じてほしいと思います。また、日置の貴重な自然を守っていくことも大切だと感じました。今の私たちにできることは何か。日置の魅力を発信するのに欠かせない自然。私たち中学生にできる、自然を守る方法をも一度考えてみたいと思います。

また、みなさんは白良浜の近くにある千畳敷をご存じですか？今回の鳥毛洞窟がある志原海岸には白浜町のもう一つの千畳敷があります。ちなみにこの千畳敷は白良浜近くにあるものより何倍も広いそうです。今回、鳥毛洞窟にスポットを当て取材を行いました。志原海岸にはまだまだ私たちの知らない秘密があるように感じま



ゴカイの仲間が作った生痕化石



す。結婚してから約40年間日置に住んでいるそうで、今は、自由気ままに生活しながらガイドをしています、と話してくれました。ですが、もともとガイドを志していたわけではなかったようです。きっかけは県のガイド養成講座で、地質や地形について専門的に勉強したいと思っていたので参加してみたところ、そこに惹かれ、今は、ジオガイドとして志原海岸の魅力を知ってもらうことが楽しくなると話してくださいました。山本さんに日置の町の魅力について聞いてみると、山・川・海それぞれの恵みを受けて生活できる町だとおっしゃっていました。また、山本さんは安居（あこ）地区に住まれており、安居地区にある日置川では自然を満喫して遊べたり恵みをもたらしたりするので、日置のおススメの場所だと教えてくださいました。安居の川は私たちの夏の遊び場でもあります。日置出身ではない山本さんにとってもおススメの場所。みなさんもぜひ夏の思い出を日置川で作ってみませんか？

また、山本さんは、日置は安心して住める町だと話してくださいました。これからも安心して住める町が続いていくことが山本さんだけでなく地域の皆様にとつての願いであるのだなと感じます。中学生に期待していることを聞いてみると、自分の可能性を最大限引き出す努力をして自分の未来を切り開いてほしいと願ってってくださいました。山本さ



ときにできた亀裂が10万年から12万年かけて風化と波による浸食で出来たもので岩壁に穴が二つ並んで開いています。高さ約10メートル、奥行き約30メートルの大きい穴と、少し小さい穴が開いています。潮が引いている時は、洞窟の中まで入ることができます。洞窟の中からみる夕日がいちだんと綺麗です。また、満潮時は洞窟までの岩場も水に浸かるので、洞窟にたどり着けなくなります。連やタイミングも相まって自然が生み出す美しい景色に出会えます。

砂岩と泥岩が互層になっている「しましま地層（砂岩泥岩互層）」になっているため、波食棚、海食崖、海岸段丘、海食洞もみられます。私たちが驚いたのは、今はまだ小さい洞窟も、何万年後には大きな洞窟になる可能性もあるということです。自然の力はすごいなと思いました。また、洞窟の近くにはゴカイの仲間が作った生痕化石やカメノテなどの生き物がいます。生痕化石とは、生き物が生活していた跡が化石になったものです。

私たちが鳥毛洞窟に案内してしてくれたのは、南紀熊野ジオパークガイドの山本由美子（やまもとゆみこ）さんです。今後も取材を続け、秘密を少しずつみなさんに紹介したいと思います。



八幡山城跡までの道のり

八幡山城跡の入り口!このような看板が立ってるんだ。



ここは空堀と言って、下から来た敵を上から倒す構造物だよ。



ここは一の曲輪と言って、八幡山城で最も重要な場所だよ。

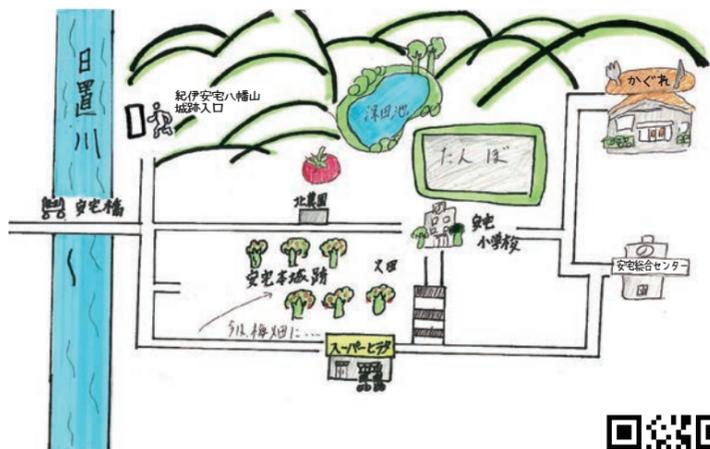


虎口(城の入り口)を抜けると、二の曲輪(くるわ)が広がっているよ。



八幡山城跡については
白浜町教育委員会 生涯学習係
学芸員 佐藤純一さん
〒649-2211
和歌山県西牟婁郡白浜町1600
☎0739-43-5830

ひきがわ歴史クラブについては
会長 尾崎彰宏さん
☎090-6915-2283



@安宅

歴史を知り

日置を見つめる。

和歌山県西牟婁郡白浜町日置出身の尾崎彰宏(おさきあきひろ)さん。尾崎さんは、歴史が大好きな人で、私たちに安宅(あたぎ)本城跡や八幡山城跡について熱心に教えてくれました。尾崎さんの言葉から、郷里の歴史への思いや熱量が伝わってきました。

安宅地区の八幡神社の近くにある安宅本城跡。今は畑になっていますが、15世紀から16世紀ごろには安宅氏の居館が建っていたそうです。安宅氏は阿波国(徳島県)から来て、日置川を利用し瀬戸内や東海と貿易をし、安宅荘帯を支配していました。本城跡からは、中国の青磁なども発見されています。安宅氏は大正時代まで安宅地区に在住し、矢田(やた)地区にある宝勝寺には安宅氏のお墓があります。子孫は現在、北海道の小樽に住んでいます。本城跡の近くには八幡山城跡があり、「詰めの城」として使われていました。安宅本城跡や八幡山城跡について尾崎彰宏さんにお話を聞きました。



尾崎彰宏さんは、生まれてから75年間ずっと日置にお住まいになっています。退職する前は教育委員会で仕事をしていました。今は、白浜町文化財保護

審議会委員やひきがわ歴史クラブ会長などを行っています。教育委員会で仕事をしていたので、日置の歴史と関

わることが多く歴史に興味を持ちはじめたそうです。そんな尾崎さんが最近興味を持ったことは、安宅氏が築いたとされる日

城跡が発見されたことと、久木(ひさぎ)の橋の近くに焼きガマの跡

が発見されたことです。日置城跡は、70メートルくらいの高さになっており、日

置の町と日置川の河口を一望できたため、河口周辺を監視していたそうです。焼きガマの跡は、もともと銅製錬所として使われており、人工的に掘った穴も発見されたそうです。

尾崎さんが会長をしているひきがわ歴史クラブは2017年から始まり、今年で6年目です。現在の会員は55人で、町外からの参加者も大勢いて、日置の歴史に興味がある

は誰でも参加できるそうです。日置の歴史を後世に伝えるために様々な活動をしています。尾崎さんにとつて日置の魅力は山、川、海だそうです。日置に、ずっと住んでいると日置の自然などが当たり前になっていて魅力に気付けないことがあり、町外から見るとう感じられているかを大切にしたいとのことでした。今一番やりたいことや目標はなにかと尋ねてみると、災害に耐えられるような人・町づくりだと答えてくださいました。十年後の日置がどうなっているかについては、活気あふれる



町になってほしいのと、住みやすい町づくりをしてほしい、また、日置の課題は人口の減少なので、若い人が再び日置に戻ってきてほしいとおっしゃっていました。尾崎さんにとって安宅氏本城跡や八幡山城跡とは、「鎌倉時代からあった山城なので色々な知恵が詰まっております。先人が残してくれた財産」だそうで、みんなに伝えていきたいと、とても熱心に答えてくださいました。



今回取材にご協力くださったひきがわ歴史クラブの前岩崇(まえいわたかし)さん(左)と、学芸員の佐藤純一(さとうじゅんいち)さん(右)



お話を伺っていると、北さんが手間暇かけてトマトを育てている様子がよく分かりました。

取材に伺ったのは6月後半。この時期にしていることは、毎日いろいろな芽や葉っぱを摘んで、残した実に栄養がいきわたるようにするということです。

北農園さんで作られているトマトは、キヤロルセブン、サングリーン、サンオレンジ、フルティカ、チェリーゴールド、アイコ、ぜいたくトマト、の六種類です。

トマトを美味しく作るためには、糖度8度ぐらいで作ると甘くて美味しくなるそうです。そして、心に余裕を持つてのびのび作ると自然に美味しくなると笑顔でトマト作りの秘訣を語ってくれました。

トマトは11月がシーズンの始まりです。年明け頃が甘味も増して一番美味しい時期になります。お歳暮などの贈答用にも大人気で、初物を心待ちにされるお客様もいらっしゃるそうです。一番美味しい食べ方は「そのまま」。「焼いたり加熱しないでそのまま食べてほしい。」と教えてくれました。

北さんのトマトの特徴は見た目がかわいいところで、どうしたらお客様に喜んでもらえるのかを意識してパッケージをカラフルにするなど工夫されているようです。

商品見本のパッケージの中には赤や緑、オレンジ色のトマトが入っていて、形もまん丸だったり細長かったりして、見た目にも楽しくなるように工夫されています。「このトマト、味はどんな味なんだろう？」と興味が湧きました。

コロナが流行して大きく変化したことは、第一波の時はお店に買いに来られるお客様が減ってしまいましたが、その反面、地方発送の注文が増え、直売所などでも売り上げが上がったり、トマトの販売先が広がるきっかけになったそうです。北さんに十年後どうなっていたいか尋ねると、「十年後も同じように、頑



張って作ったトマトがお客様から愛されてほしい。」と答えてくれました。

これから日置の町がどうなっていくか、という質問に対しては、「この『ひきよせ』の活動で日置の町に人を呼べるようになってほしい。」中学生に期待していることは「何でもいから何かに夢中になってほしい。そして、大人になったらまたいつか日置に戻ってきてほしい。」とのことでした。

北さんの願いに込められるよう、私たちは『ひきよせプロジェクト』をさらに大きくしていきたい、日置を盛り上げていきたいと強く思いました。北さんのトマトの力も借りながら、地域全体でこのプロジェクトを成功させていきます！



北志保 (きたしほ) さん



北和幸 (きたかずゆき) さん

和幸さんは地元安宅の生まれ、もとはミカンやウスイエンドウを作っていました。奥さんの志保さんは大阪の出身で、栽培と販売で和幸さんを支えています。トマトを作り始めて約25年、始めた頃は周りにトマトを作っている人がおらず手探り状態で、10年目までは失敗の連続だったそうです。今では産直市場や地方発送の販売の他、直接お店にお客さんが買いに来られる喜びが増えたそうです。



@安宅

みんなから愛される
トマトを作りたい。

トマト作りで心がけていることは、「毎日同じことの繰り返しだけど丁寧で育てること」。

日照時間の長い日置は、トマトを作るには適地なのだそう。

トマトはビニールハウスで作りますが、温度をベストな状態に保つのが難しく、毎日の温度調節を丁寧に行うことが大切。夏場の日中は30度は超えるので、ハウスに遮光ネットをかけて、循環扇を回すなどして、暑さ対策を行います。冬場は換気窓を少し開ける程度で、日中なら真冬でも日差しがあれば20度以上あり、快適に作業出来る環境です。夜間はハウス内が10度以下にならないように管理していて、10度以下になるとポイラーで加温すること。

また台風の際は、ハウスが壊れないようにするのが大変だとおっしゃっていました。

手間暇かけて毎日工夫されているトマト作りへの愛を聞いてきました。



[北農園]
白浜町安宅132
TEL 0739-52-2245
HP <https://blog.goo.ne.jp/kita-farm>
販売 13:00-17:00 日曜日 休み
お越しの際は事前にご連絡をお願いします。

写真コンテスト

photo contest

季節に合った写真を撮って、写真コンテストを行いました。前編では春、夏バージョンの結果を紹介したいと思います。

春



サクラ



夜桜



お花見スポット



桜



バス停と桜



ジブリっほいな



春空



菜の花畑



シルエット

春は桜の写真がたくさんランクインしました。日置にはあまり知られていませんが、たくさんのお花見スポットがあるんですよ(^^)ぜひ一度お花見に訪れてほしいなと思います。優勝は夕方の桜の木ときれいなグラデーションの空でした!

夏

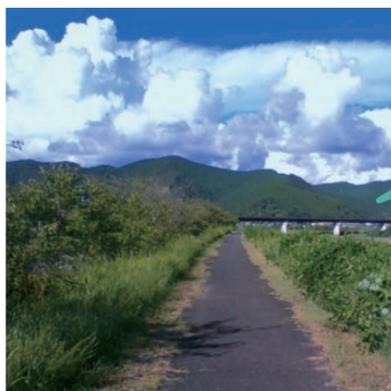
日置の夏と言えばやっぱり海!?!きれいな志原海岸の写真やきれいな空の写真がたくさんランクインしました。優勝は夏らしい入道雲と、長くまっすぐに続く田舎道の、日置ならではの風景でした!



海を見つめるセミ



夏の終わり



夏の山と堤防



夕日が落ちるまにに...



涼しくて静かで、



恋がみのる花!?



赤い大きな橋



志原海岸



午後の志原海岸

@日置

子どもたちの成長を

見守る日置の母。



元保育園の園長先生で、今は学校ボランティアをされている平阪恵(ひらさかめぐみ)さん。平阪さんは今から55年前の中学二年生の時、兵庫県西宮市から日置に引っ越して来られました。平阪さんが中学生だった頃、当時の先生に言われた「あなたは子どもに関わる仕事に向いている」という言葉がきっかけで保育園の先生を目指すという道です。

保育園の先生を退職された今も、「子どもに関係する仕事かしたい」と学校ボランティアをされています。学校ボランティアでは、中学生と花植えをしたり、図書室をよりよい環境に整えたり、と私たちのために様々な仕事をしてくださいました。

保育園の先生をしているとき、園児に様々な体験をさせたくて、川に遊びに行ったり、毛糸の帽子を作ったり、保育園で作った野菜や果物でお餅やお菓子を作る活動をたくさん取り入れていたそうです。「子どもにはたくさんの経験をさせたい」という子どもたちへの深い愛情や思いやりが感じられました。



55年間日置に住んでいる平阪さんは、私たち中学生が知らない昔と今の日置についても教えてくださいました。「今よりも昔の方がお店などがたくさんあり、便利で賑わっていた。今の日置は昔と違って人も少なく、お店も少ないので寂しくなった。人と会う機会が減り、話す機会が減ってしまった。」そう教えてくれた平阪さんは昔のように人と話す機会を増やすために地域の人と結成した仲良し会のメンバーとともに「ワンコインモーニングサービス」を始めたそうです。このサービスには、子どもからお年寄りの方までたくさんの方が来てくれるそうです。いろいろな人と楽しく話せるし来てくれるみんなが楽しそうにしている姿を見て、平阪さん自身も嬉しくなるそうです。そんなワンコインモーニングサービスも今はコロナの影響で出来ておらず、「また人と話す機会が減ってしまい少し寂しくなりました。」とおっしゃる平阪さんを見て、世の中が落ち着き、また昔のように人とのコミュニケーションが対面でできる日が早く来るといいなと強く思いました。

どい思いや楽しい出来事をたくさん経験して、やっと無事に園児たちが卒業していく。「それが保育士である平阪さんにとって、最大の喜びだったそうです。」



私たちが保育園に通っていた頃、園長先生として、母のように私たちの成長を見守ってくださった平阪さん。今は私たちに託してただけでなく、まさに地域にとつての母親的存在として日置を支えてくださっています。これからも日置の母として私たちが日置の町を温かく見守ってください。私たちがこれから日置を元気あふれる場所にするため「お店などを取材すれば良いのではないか」とのアドバイスをくださいました。また、今の日置中学生には、人とコミュニケーションがとれる人、思いやりがある人になってほしいとおっしゃってくださいましたので、期待に応えられるように頑張りたいと思います。



おすすめスポット紹介の旅、しゅっぱ〜っ!

Introduction of recommended spots

田野井橋・日置川

夏になると、たくさんの方がこの日置川に遊びに来ています。川遊びだけでなく、魚を釣ったり、バーベキューをしたりして楽しむことができます。近くには自然に囲まれたキャンプ場もあります。ぜひ楽しい1日を日置で過ごしてみてください。



安宅の堤防

毎年、堤防沿いが一面の桜並木になります。桜が満開に咲いていて風が吹くと花びらのシャワーみたいになるのでとてもきれいです。ぜひ、満開の桜を見に来てください!



太平洋岸自転車道

晴れた日の朝や昼にこの道を歩くと、太陽に照らされてキラキラ輝いた海を見ることができ、夕方にはオレンジ色に輝いた海を見ることができます。太平洋岸自転車道でもあるこの道をサイクリングしてみませんか?



かなたの入り江

鳥毛洞窟に向かう途中にある海岸です。広い砂浜や海があるわけではありませんが、日置の千畳敷が近くにあたり魚が泳いでいる透き通った青い海があります。ここは日置ではめずらしい泳ぐことができる海だそうです。また、上から見下ろす入り江の景色もとてもきれいです。



日の出神社

境内の真ん中には樹齢700年の大きなクスノキがたっています。神社の周辺も木に囲まれていて、夏でも木陰があつて涼しいです。日の出神社でお祈りしたらいいことがあつたと聞いたことがあります。日置に来たらぜひ日の出神社にも行ってみては?



日置の町並み

日置の町には昔ながらの古い町並みが残っているところがあります。林業の町として栄えた名残が残っている場所もあります。一時期JALの宣伝にも使用されたこともある素敵な町並みです。何気ない景色ですが散歩しているとお気に入りの景色が見つかるはずですよ。



Check



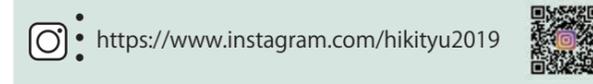
足つぼロード

道の駅 志原海岸に最近できた足つぼロードです。健康状態によって痛みが違ふのだそうです。ここから海のほうを見ると、ヤシの木も見え、まるで南国のリゾートのような景色を見ることができます!



ベアーズロック

志原海岸には、太平洋に向かって真っすぐ前を向いている、クマの頭の形をした大きな岩「ベアーズロック」があります。遠くから見るといいのですが、近くで見るとより迫力があります。海を眺めながら散歩するのにちょうどいいところです。



<https://www.instagram.com/hikityu2019>



ひきよせ創刊号設置



ひきよせ創刊号の発送準備



ひきよせ創刊号設置の依頼



町歩きツアー後のディスカッション



クラウドファンディング返礼品の町歩きツアー開催



ひきよせTシャツ完成



取材の様子@鳥毛洞窟



取材前打合せ



ひきよせ第2号の取材先依頼



PR動画作成



記事づくり



取材の様子@八幡山城跡



日置の町写真コンテスト



表紙撮影



1学期のまとめ



ゲストティーチャーのTETAU山本賢さんです。私たちの授業に携わってくださるようになって4年目になります。

今年度はチームリーダー制にして1年間の授業に挑戦しています。がんばるぞ〜!



総合的な学習の時間

“日置の魅力をたくさんの人に伝えよう”をひきよせプロジェクトの中心に置き、ひきよせ第2号の作成が始動しました。全員が別々の持ち場で作業をし、それがひとつとなって完成したのがこの「ひきよせ第2号」です。一人ひとり違う活動をするのは難しくもありましたが、全員が主役となって頑張ることができました。

活動する中で、日置の豊かな自然を再確認し、町の温かさにたくさん触れ、ここに暮らす人たちの想いにたくさん触れました。たくさんの魅力を再発見し、私たちはこの町がもっともっと好きになりました。

もちろん大変なこと、難しいこともありますが、さまざまな場面で成長を感じることもできました。



9マス思考を使って日置の魅力を再確認



ひきよせ創刊号の取材先へのお礼



1学期オリエンテーション



クラウドファンディング返礼品の発送



いろいろな雑誌から紙面構成を学ぶ



各チームのチームリーダー認証式



紙面構成を考える



ひきよせ創刊号の設置場所を考える



授業風景を記録



日置の町を撮影



各チームの活動報告



PR動画の絵コンテを考える

3年生の感想『総合的な学習の時間を通して！』



田中 稜大

町歩きをして、あまり日置のことを理解していないと実感しました。もっと日置のことを知っていけるよう日置の歴史などを知りたいです。



濱田 菜々香

私は自分の意見をしっかり持つことができるようになったと思います。すごく緊張することもあるけど、とてもいい経験になりました。また、協力することで、解決できることがあったので仲間って大切だと思います。



栗山 さくら

フリーマガジンを見て日置の海、山、川、自然がきれいなところをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。

ひきよせ創刊号読者の方から いただいた感想を一部紹介します！

内容は本当に素晴らしく、これが無料なのかと思う程で、僕自身日置出身ですがそれでも楽しめるような面白い内容でした。おそらく、活動の裏側には様々な問題もあったことかと思えます。それには生徒自身の努力はもちろん、先生方のサポートも大変なものだったはずですが、それらを乗り越えて今回発刊に至ったのは本当に凄いですし、皆様の努力の賜物だと思います。

「日置の魅力を伝えよう！」とこういった形で活動をされるのは例え、高校生、大人であっても中々出来るものじゃないと思います。後輩がこんなに頑張っているんだから僕も頑張ろう！と奮い立たせられます。これからも応援してます！頑張ってください。

地域に密着した、懐かしい、それでいて斬新な内容だと思いました。人口が減少し、特に合併してからはいろんなイベントもなくなり、本当に寂しくなりました。日置中学校の生徒数も今は少なくなってしまったけど、こうして日置中学校の皆さんが頑張ってる日置のことを考え全国に広げようとしていることは本当に素晴らしいことだと思います。すごく刺激になりました。

今、日置中学校を卒業した多くの先輩が全国で活躍されています。こうした方々に皆さんの活動が伝わればもっと支援もしてくれるだろうし、一緒にこの取組を広げてくれるはずですが、

中学生の皆さんはこれから大人になり、いろんな分野で活躍されると思いますが、生まれ育ったふるさととのことはいつまでも心に残るはずですが、誇りをもって、これからも日置の魅力を発信し続けてほしいです。こうした活動は皆さんを一人の人間として強くしてくれると思います。これからも日置中学生の皆さんの取組を応援しています。頑張れ!!日置中学生!!

ひきよせ創刊号を手にとったくださった方々から、たくさんのご感想をいただきました。心温まるメッセージ、ありがとうございました。皆様からのご意見ご感想を参考にひきよせ第2号の制作に取り組んできました。まだまだ改良点がありますので、ぜひ皆様の声をお聞かせいただくと嬉しいです。期待に応えられるよう、これからも頑張っていきたいです!

とても面白かったです。皆さんの感想を全部読ませてもらって、クラファンを始める時の不安から、大成功したことにより自信がついた、という感想がとても印象に残りました。成功も失敗も、経験は自信だと思います。これからもたくさんいろんなことを経験して行ってほしいです。

2019年に少しだけ日置にお邪魔していました!あの時の活動が今こんなに大きな形になっていて、みなさんのパワーの凄さを感じています。自分たちの手で、仲間と力を合わせて、1つのものを作り上げられるってとても素晴らしいと思います。ぜひ、これからも、今後出会う人たちと、いろんなものを作り出してほしいです!うちの地元でもこういう取組があったらいいのよ~と思いました。他の地域にも、こうやったらいいよ~!とぜひ共有してください。ありがとうございました!!

将来を担う生徒さんたちが、自らの町に誇りを持つ大きなきっかけになったと思います。地元に住む方々へのインタビューを通じて町の人を知り、大人との繋がりをつくり、さらには文章を書き、写真を撮り、編集もして、そして何よりこうやってクラウドファンディングを成立させて私のような人間が日置を知るきっかけを自分たちの力で作り上げた。ここに携わったみんなの成長が明日の日置をステキな町にしていくのだと思います。

今の気持ちを大切に育ててください。そして、「こんな町なんて」「何もない」なんて言う大人たちに、逆にそんなことを言うことが恥ずかしいことなんだと教えてやってほしい。これからの日置、ますますステキな町になることを期待しています。



上平 つばき

新しいことに挑戦したくない人だったけど、最近「あ、おもしろそう」と思えたり、「絶対楽しい」と感じれるようになりました。成長したなと自分で感じています。



染道 琉来

最初は何もかも無理と思っていただけに挑戦して悔いはなく、得をしました。新しいことに挑戦し、新しい自分に出会えました。周りの人に感謝し、この経験を将来に役立てたいです。



高畑 七海

総合を通して人の温かさたくさん触れました。私たちの活動は決して簡単ではないし、しんどいこともあります。ひきよせを見てくださった方からの声を聞くこと心の底からよかったです。



宮山 琉菜

最初は興味がなかったことも調べていくうちに興味が出てきて取材が楽しみになり、虫送り当日も参加しました。これからの総合もみんなと協力しながら成長していきたいです。



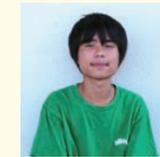
江川 真央

みんなで協力する大切さや、協力するときに大切なことが分かったり、自分が分からないことも下級生はもっと分からないだろうなと思いつつ頑張ることができるようになりました。



鷲見 悠斗

僕は臨機応変に対応する力とコミュニケーション能力が身についたと思います。この力は将来どんな仕事に就いても必ず必要になるものだと思うのでこれからももっとレベルアップしたいです。



一山 奨

僕にとってこの活動の経験はとても価値が大きいです。これからもひきよせプロジェクト成功のために、少しでも貢献できたらと思います。



奥村 仁暉

総合を通して成長したことは、取材の態度や与えられた仕事は最後まですること、責任をもって行動することができるようになったことです。



江川 慶臣

取材を通して御船祭の歴史や、日置の歴史などを知ることができてとてもよかったです。将来にも役に立ちそうだなと思いました。



栗山 煌綺

総合を通してこの町の魅力に気づいたし、頑張る大人たちの姿を見てみんながこの町を好きなことが伝わりました。また、大人と関わるのは得意ではなかったけど少し克服できました。



湯川 永久

みんなと協力することができたので、仲を深めることができました。日置のことを1つでも多く宣伝して、「日置に行きたい!」と思ってもらい、なおかつ日置を楽しんでもらいたいです!



尾崎 怜菜

取材や人前で発表する機会が増え自然と話す力がつきました。これからももっと日置を知り、日置の活性化につながるよう多くの人に日置を知ってもらいたいです。



中本 陽心

自分たちで計画した取材をできたのが嬉しかったし、人との関わりをより深めることができたと思います。このひきよせプロジェクトは日置の未来につながるなと思います。



大内 桜綺

取材に行って、普段なら絶対に聞けないようなことや詳しく知らないことを知ることができたのでよかったです。これからもたくさんの経験をしたいです。



松場 妃那

こんなにいろいろなことに取り組んでいる中学校はなかなかないんじゃないかと思っています。これからもたくさんさんの経験をして新しい力をつけていきたいです。



山崎 聖

この「ひきよせ」が日本全体に広がり、私たちの故郷に訪れてくれる人が増えて、日置が明るく元気な町になって欲しいです。